

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 3070104280 | | |
| 法人名 | 有限会社ふるさと | | |
| 事業所名 | グループホーム ふるさと | | |
| 所在地 | 和歌山市小瀬田85番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年3月5日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年4月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=3070104280-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 和歌山県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 和歌山市手平2丁目1-2 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月22日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様中心に考え行動し、できる限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日をご過ごして頂くために健康管理に努めている。そのため、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられるようにしている。なお、受診する際の送迎等については、車いす移動車を導入しており、できるだけ家族様に負担をかけない様に配慮している。

1、常に入居者様を中心にいかにかにして安心した快適な毎日をご過ごして頂く事ができているか
 2、健康管理は重要で些細な事でも見逃さないよう十分管理し、常にベストな体調を維持しているか
 3、家族様には安心してお預け頂き、家族様の負担軽減につながり、お役に立つことができているか
 この三つのスローガンを基に行動している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を基本に、常に認知症介護の質の向上及び環境整備の改善工夫等を図り、入居者や家族の安心安全、生活の質の満足度を高めるよう努めている事業所である。

開設当初からの入居者や職員が多く、家族、地域の人々、関係機関等と馴染みの関係が十分に図れている。地域の中で、グループホームという特殊なものでない、一軒の家として地域の一員であるようにしている。

コロナ禍であっても、今までの生活が出来るだけ継続出来るよう、自然な暮らしを求めながら、入居者の日常生活に、楽しみが持てるような工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設の理念を各棟のホールに掲示し、職員会議等で確認している。自然の中でそれぞれが自由に、穏やかに暮らしていけるような住環境に工夫、配慮している。外を見渡せる大きな窓、風通しの良い広い中庭、地域の方々が気軽に訪ねて来られ、お話しできるアプローチ。地域の方々と気さくに会話ができて、いつでも外気に触れられるよう努めています。 | 開設当初からの理念に基づき、変わることなく進めている。 家族に対しても、施設の理念を丁寧に説明し、常に、理念が共有できるような取り組みを行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 自治会に加入し、清掃活動や回覧板の受け渡しに参加させていただいている。コロナ禍のため集会や毎年恒例の桜のお花見会は中止させていただいているが、地域の方々より季節の野菜や果物を頂いており、頻繁にお話させていただく機会があり、施設の運営についても相談させていただき助言を頂いている。 | 地域との交流は、感染症対策を取りながらも継続できている。 お米やお野菜を近所付き合いとして頂く機会も多くある等、日常的に関わりがある。 職員も入居者も地域の中での施設という意識が見られる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通じて地域の方々や老人クラブの方々との関わりを深めている。毎年、桜の花見会や夏祭りにご参加くださり、認知症の方の思いや関わり方など、ご理解ご協力頂いている。コロナ禍となり現在は集まりを控えているが、回覧板やお野菜等を届けてくださる歳に、ご高齢のご家族のご相談等してくださり、その場でも支援の方法などをお話させていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域にお住まいの方、自治会の方、民生委員、家族様、入居者様、地域包括センターの方、皆様のご協力を得て定期的に開催している。ホームでの日々の暮らしの事や活動状況、消防訓練研修などを報告させて頂いている。皆様のご意見を都度頂いており、会議の内容がマンネリ化せず有意義な会議になるように努めている。また緊急事態発生時等、災害などの時には連絡網を作成して下さったり、水道が止まった際には井戸水を提供して下さる等、運営推進会議を通して様々な協力を申し出てくださり、コロナ禍となった今でも来訪して下さり、ホームの取り組み等をお話させていただいている。 | コロナ禍において、集合型の会議は開催できていないが、関係者への施設の運営状況等の報告書送付や電話を利用する等の工夫にて、停めることのない取り組みとしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コロナ禍以前は各地域包括センターの方々と連携させて頂き、包括主催の研修会などにも参加させて頂いたり、職員の意識向上に繋げさせて頂いていた。包括主催の相談会など、お知らせが届いた場合(認知症相談会他)など地域の皆様にもお知らせさせて頂いたり、入居者家族様のご相談事など、解決に向けて各包括の方々に繋げさせて頂いている。 | 地域包括支援センターとは、会議だけでなく、オムツの支給等関連の機会に交流を深め、現状報告や相談する等を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については日ごろから職員同士で話し合う機会を設けている。人権を保障しつつ介護を行うという基本姿勢の下で職員が一つになり取り組むべき課題であると認識している。職員全体の研修と、身体拘束適正化委員会を設置し、人権擁護推進委員会でも身体拘束については話し合っている。 | 施設内の勉強会に力を入れ、日常ケアを振り返る等の取り組みをしている。 玄関の施錠はしないだけでなく、外出についても立地条件を有効に活用しながら、入居者の気持ちに寄り添い、身体拘束をしないケアを進めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員が心にゆとりをもって入居者に接する事ができるよう、介護負担を抱え込み過ぎず職員同士でうまくヘルプできる職場環境に取り組んでいる。虐待防止として、認知症についても理解できるよう勉強会を開催し、職員間で様々な対応など話し合い虐待防止に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 人権擁護推進委員会を設置し、権利擁護についても話し合っている。委員会が中心となり勉強会も開催し、認知症高齢者の人権を守るため、入居者それぞれが穏やかで自分らしい暮らしについて意見を出し合っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や解約また改定等の際には解り易いよう丁寧にご説明している。入居後に予測されるリスク、心身の低下等についてもご説明させて頂いている。ご本人や家族様の不安事や疑問点について質問され易いよう環境に気を配り、十分な説明を行っている。メールアドレスを整備して、メールでも質問等にお答えしご理解ご納得頂いている。また地域包括センターにも繋いで相談に応じて頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍で面会を一部制限させて頂いている中でも、メールや電話、手紙などを用いて利用者様、ご家族様が意見、要望、質問等表せて頂けるよう配慮している。利用者様の日常の様子を報告することで安心して頂けるよう努め、その中でご意見等伺い運営に反映させて頂けるよう努めている。 | 「ふるさと便り」といった毎月お出しする情報紙に、生活場面等の写真を載せるだけでなく、職員手書きの報告書をつけ、温かみのあるものとしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員が意見や提案をしやすい職場環境づくりを心がけている。職員は管理者に気軽に相談できるようメール等でも頻繁にやり取りしており、意見ノートや申し送りの中でも意見交換できるようになっており、毎月の職員会議でも発言しやすい雰囲気作りに努めている。 | 最近では、SNSの活用を積極的に行い、職員のプライバシーを尊重しながらも、相談や意見等を出しやすい雰囲気作りを進めている。また、昼食時間や休憩時間には楽しく語らいながら意見を表明しやすい場づくりも行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格習得、実績、努力等考慮し特別賞与などを提供している。研修受講、資格習得に向け希望あればその希望に添えるよう勤務の調整、受講費用の負担など職員個々の希望に添えるよう努めている。職員と管理者は日頃からコミュニケーションを図り、管理者は代表者にその思いや意見を伝えていけるよう努めている。また小さな子どもがいる職員や年配の職員も数人在籍しており、就労時間や休みの希望等ある場合は社労士と相談しながら、できる限り希望に添えるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修を受講しやすくする為に勤務の調整を行っている。管理者と職員は日頃よりコミュニケーションを図り、職員個々の希望を日常会話の中からもくみ取れるよう配慮しながら、個々が向上心を持ち働ける環境作りに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域資源の利用により地域文化祭等の参加団体や同業者とも交流がある。また必要な機器の購入を図りネットワーク作りを支援している。勉強会に参加するなどの時には、必要な交通費諸費用にも配慮している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人、ご家族、各関係事業者や主治医からの情報に基づき、アセスメントを行い不安なこと、ご要望に十分に耳を傾けている。信頼関係を構築する上でコロナ禍前は自施設の食事会やイベントにもご参加いただき、直に施設の雰囲気を感じて頂けるよう努めていた。現在は電話やメール等でも気軽に話して頂けるようご家族様にはその旨を伝えている。また、入居前にも訪問調査を行い、情報収集し、本人様や家族様の要望に対応できるよう配慮し、不安や疑問がないよう配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にご本人様と一緒に見学に来ていただき、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスにつながるよう取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、ご意見やご要望を話しやすい雰囲気作りに努めている。また、毎月のふるさと便りにて写真とともにご本人の様子や受診内容についてもわかりやすく記載して送らせていただいております。いつでも気軽にご連絡いただけるようお伝えしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時には、ご家族様とご本人がその時求め、要するサービスと今後の希望や要望についても十分に話し合える機会を設けている。また不安な事や疑問点をお聞きし、不明な点や新たな要望があればいつでもお電話くださるよう伝えている。その上で必要と考えられるサービス利用について都度話し合い、業務中でも気になることがあれば職員同士で話し合い、ケアマネジャーに相談し、ご本人とご家族様の意向をしっかりと把握した上での対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者様を中心に考え、日々の生活の中でも表情や態度からくみ取れる様、職員間で入居者様ひとり1人の状態については毎日話し合っている。ご本人の能力に応じて負担にならないよう家庭でしていたであろう家事等に参加し頂けるよう努めており、入居者様が話しやすいよう、居室でお話する機会を設け、不安や意見、家事が負担となっていないか等お聞きしている。またホームには小さな畑があり、農業に詳しい入居者様は多く、アドバイスを頂きながら一緒に季節に合わせたお野菜を育てており、利用者様から学ばせていただく事も多くある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 現在は面会を制限させて頂いているため、ふるさと便りや電話等を通じて、月に1度以上は利用者様の状態や近況を写真と共に報告している。ご家族の相談事についても耳を傾けさせて頂き絆を深め、意見を頂く事でサービスの向上を目指している。職員からご家族様へ、ご本人の生活歴等お伺いし、ご家族様とご一緒に考え、ご本人にとってより良い生活環境となるよう努めている。労いや感謝のお言葉を下さるご家族様も多く、それを職員に伝えやりがいを感じられている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現在は面会を若干制限させて頂いているが、感染症対策を行い、少人数短時間の面会は希望があれば応じている。 | 感染症対策は重要視しながら、出来る範囲での面会や交流が出来るようにしている。関係性を絶たないという考え方の元、進めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者ひとり1人での出来ることや、分かること、興味のある事や苦手な事を把握し、職員同士で共有している。個々の性格や能力も把握した上でホールでの座る位置等を考え利用者同士で会話がしやすい様に配慮している。また互いに苦手な部分を協力して、支え合い助け合えるような関係作りに努め、家族という様な雰囲気作りにつとめている。入居者同士がどこにいても会話を楽しめるよう可動式のパーテーションを設置し、必要に応じて移動させている。お誕生日会では利用者様全員でお祝いさせていただく等、利用者様同士が関わりあえるよう配慮している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了しても信頼関係が継続できるよう、適時に連絡を取ったり、お手紙のやり取り等、退所後であっても関係は継続している。転所先のスタッフからも、ご本人の嗜好等を相談されることもあり、お電話でご本人とお話させていただく事もある。ご家族との関係も継続しており、季節のお野菜や果物をいただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のふるまい、言葉、表情など常に観察させて頂き一人ひとりの思い、暮らしの希望をくみ取れるよう努めている。ご家族様より伺ったご本人の暮らしの思い出等、職員全体で把握し日々の暮らしの中で私達が得た情報はご家族様に伝え、ご本人の思いや意向についてご家族様と話し合いながら寄り添い、何でも話し合える関係作りに努めている。また入居者様が思い出話や希望をお話下さる際は他職員に声をかけ、思いを全てお話し下さるまで傾聴できるよう、職員全体がそれを優先として動いている。 | 毎日の一人ひとりの思いに注意深く心をくだき、聴くことに徹している。家族に対しても、関係者に対しても変わらず、聴くことを心がけている。その取組みにより、話しやすい雰囲気が出来ており、信頼関係の元での思いや意向の把握が可能となっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族とのコミュニケーションを日頃から密に図ることで、過去の生活歴、また新たな情報の収集が出来る。その情報を活かし、より良い支援過程の展開につなげ、従来の生活に近づけるような個別援助に努めている。また、以前に受けていたサービスがある場合はその担当者にも情報を提供してもらえるよう努めている。またご本人から得た情報を職員間で共有し、会議やカンファレンス時に話し合っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日2回以上のバイタルチェックを行い、利用者個々の平均値を把握し、体調不良者や身体機能が低下してきているご高齢の入居者様等は頻回にバイタルをチェックし、些細な変化も見逃さないよう努めている。自ら考えて決定できるような質問を心がけ、入居者様自身が選択できるよう努めている。また心身に対する支援については主治医の指示、指導の下で努めている。ひとり一人が個々のペースで生活出来る様な環境作りに努め、ご本人の思いを尊重してプライバシー保護にも努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族様の意向や希望を伺えるよう取り組み、一人ひとりの課題、あり方について職員会議、カンファレンスやモニタリングなどを通じて介護計画の見直しを行いより良い支援の提供、支援過程が行えるよう計画を作成している。また関係職種とも連携を図りそれぞれの意見を取り入れ、都度のモニタリングやヒヤリハット事例検討会など、現状に即した統一したケアを実践出来るよう職員や関係職種の方々の意見、アイデアを反映しながら状況に応じた介護計画を作成している。現在はコロナ感染拡大防止の観点より、電話等にてご家族様の意向や思いをお聞きし、今後のサービス内容について話し合っている。 | 面会時や電話等の利用を通して、入居者だけでなく、家族や関係者の思いやお考えを把握し、きめ細かい計画へと繋げている。 職員全員が取り組んでいる計画となっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録や申し送り、日常生活の状況を細かく記録し、いつ誰がみてもご本人の状態が把握できるよう努めている。職員間でも情報共有し、話し合いができる時間を設け、より良いサービスの提供ができるよう実践に繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 複数の医療機関と連携、連絡を取り定期的な通院や往診を行っており、主治医の指示や指導の下、健康管理に十分な配慮に努めている。また日常からのご本人様からの要望、ご家族様の希望などにも傾聴し、運営推進会議内で、包括支援センターとの相談を行うなど、社会資源も活用しながら多角的な視点で、柔軟なサービスの提供に努めている。訪問看護師とも連携し、定期的に訪問して頂く機会を設け、普段から些細な事でも相談できる関係を築いている。ご家族様やご本人のご希望に添えるよう人員配置にも配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源には何が必要か？を職員会議等またその一つでもある自治会老人クラブなどと運営推進会議を通して話し合いを行っている。身近な地域包括支援センターの職員の方々ともご協力を得ながら安心、安全な日々の暮らしが出来るよう支援している。現在はコロナ禍のため活動報告書として送付させて頂き、ご意見をお聞きしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 連携医療機関での定期的な往診により心身の状態管理、感染症予防、栄養管理指導等に努めている。入居時にはご本人の希望、家族の意向など伺っており、専門医療科への通院支援も行い、ご家族様と一緒に通院させていただく事もある。主治医とは常に連携を怠らず訪問看護師に月数回来所して頂き、入居者様の状態についてご意見、提案頂きまた主治医との橋渡し(家族様)にもご協力を頂き本人ご家族様の希望に添えるよう努めている。 | 今まで通りの生活の継続に、医療を欠かせないものとして捉えている。感染症対策を行いながら、従来通りの通院や往診、訪問看護師の利用等を進めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師の協力により、緊急時を含み適時に相談や指導など対応して頂いている。また、コロナ禍以前は職員からの要望で看護師が講師となり、勉強会も開いて頂いた。往診時にも同行され、生活状況、体調変化等、相談に応じて頂きいつでも連絡が取れる体制になっている。また月に数回訪問看護師に来訪して頂き普段から状況を報告、相談し密に連携して。夜間の急変、転倒時においても連絡が取れるよう体制を整えてくださっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | <p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>定期的な往診を通じて、医師や看護師には入居者の状態について把握して頂いているので、入院時には適切な治療が行われる。そのため比較的早期に退院出来ることが多く、今後の方向性についてももしっかり話し合っている。現在は面会が制限されているため、ご家族様や医師、看護師より入院中の利用者様の状態はお聞きし、退院後の対応や注意点について話し合っている。退院後は臨時往診や電話で相談させていただく等、十分な対応をして頂いている。</p> | | |
| 33 | (12) | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>ご本人の思いや望みを尊重しながら、連携医療機関の主治医からのお話も含み、入居時より想定し得る体調変化等については、ご家族、ご本人とは話し合いの場を設け、十分な御理解を頂ける様になっている。また、重度化や終末期においての説明を行い、書面にて同意を頂いたり、事前意思確認書により、ご本人やご家族様が望まれるサービスが提供できるように努めている。老人保健施設、関係職種との連携もあり、重度化に関しての対応も出来る様にしており、ご家族のご本人の希望に添えるよう努めている。</p> | <p>入居時だけでなく、日常から、本人や家族から、重度化や終末期に伴う意向を確認している。事業所ができる対応については十分に説明を行い、進めている。 随時の見直しは、全入居者を漏れなく行っている。</p> | |
| 34 | | <p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p> | <p>マニュアルを作成しており、対応や手順等を日頃から話し合い慌てる事なく迅速に対応できるよう取り組んでいる。事故報告書やヒヤリ・ハットの内容を見直し、検討して今後の対策を話し合っている。協力医療機関や訪問看護師への緊急連絡先を掲示板に貼付しており、急変時には主治医や看護師に指示を仰ぎ、冷静に対応出来る様に努めている。また、急変時の経過については詳細に個人記録に記載するようになっている。夜間であっても責任者や管理者等はすぐに連絡を取れるように努めている。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時に備え避難方法や消火器位置、避難経路をまとめホールに掲示している。火災通報装置や火災通報専用電話機の設置をしている。消防用設備の点検の際には専門の業者に使用方法を学び実際の災害時にも迅速に対応出来るよう入居者にも参加して頂き訓練を行っている。推進会議を通じ地域の皆様にも緊急時連絡網を作成して下さっており、また訓練の際にはご参加頂いている。水道工事のため水の確保のおりには、井戸水を確保して頂くなど地域の方にはご協力を頂いている。マニュアルにおいても勉強会や災害対策委員会にて定期的に見直し、内容の把握に努め、災害時には冷静に対応できるよう努めている。 | 自治会や運営推進会議において、協力体制を依頼し、実際に構築できている。事業所においては、入居者個々の避難用リュック、簡易型トイレを用意する等、実際的な方法も分かりやすいものとして備えている。 マニュアル等については、全職員が内容を熟知しており、有事の際は必ず動ける体制づくりを進めている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日々の暮らしの中で会話の際には言葉の使い方、話し方について一人ひとりの尊厳を傷つける事のないよう十分に注意を図っている。職員会議においても一人ひとりの接し方や関わり方について意見交換を行い、法令遵守責任者と人権について話し合い実践に繋げていけるよう努めている。個人記録等守秘義務について理解し取り扱いについても十分注意を図っている。 | 尊厳を保てるよう、研修会を継続し、日々の業務のだけでなく、日常における言葉や対応方法の見直し等に努めている。 一人ひとりの職員が、必ず取り組むべきものとして認識し進めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 各入居者ごとに、ご本人に理解して頂きやすい言葉、筆談や写真、ジェスチャー等の様々なコミュニケーションの方法を用いている。入居者様が考え決定できるような質問選びを心がけ、自己決定できるよう支援している。ご本人やご家族の思いを普段からお聞きし、日常生活に反映できるよう努めている。ご本人の思いや希望を普段の会話から引き出し、自分で決定し、それを伝えやすい関係作りを心掛け、可能な限り希望に応えられるよう努めている。また重度化により言葉では伝えられない利用者様に対しては、表情やしぐさ、今までの傾向等からくみ取れるよう入所時より信頼関係の構築に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者ひとり1人の生活リズムを把握し、個々のペースを尊重している。日々の生活の中からご本人の要望を傾聴し、その日の体調や気持ちに配慮しながら、可能な限り要望に添えるよう配慮し、ご自分のペース、リズムで生活が送れるよう努めている。利用者様のその日の心身の状態を把握できるよう就業前は職員間で報告し合っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問美容師と連携し、入居者ひとり1人の嗜好に応じた髪型やカラーを楽しめるように取り組んでいる。衣類などは、ご本人が昔から馴染みのある衣類を入居時にご用意して頂き、着用して頂くなど、家庭での生活を継続できるような支援に取り組んでいる。また敬老の日や父の日・母の日といった行事の際には下着や靴下、ストールなど様々な物を個々の希望に応じてプレゼントさせて頂き、その中からその日の気分にあったものを選んで頂いている。また職員や地域の方から新品の洋服を頂くこともあり、その際は利用者様ご自身が気に入った洋服をえらび、お渡しさせて頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 日頃から利用者が希望するメニューを写真や本を用いながら相談し、和洋中様々なメニューを献立表に書き出している。個々に合った形態や温度で提供し、旬の食材を使いながら各メニューに合わせた食器を使用する事によって目からも楽しめるよう配慮している。また、栄養バランスの良い食事になるよう献立作りには力を入れており、主治医から入居時よりも栄養状態が良くなっているとお褒めの言葉をいただく事も多い。行事や誕生日会の際には、お寿司やオードブル等、手作りではなかなか作れないものも提供し、楽しんで頂いている。感染症対策のため時間をずらして食事をしていただいているが、パーテーションを設置し、1人での食事にならないよう配慮している。 | 行事や誕生日会の食事等、入居者一人ひとりに合わせた工夫をして、楽しめるメニューとしている。 好みや見た目にも工夫をし、また、入居者が参加出来るような食事準備をする等している。職員も同じ物を食べることで、共通の話題を作り、楽しい食事への取り組みを進めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量の摂取量を記録して、入居者ひとり1人の状態を把握できる様に取り組みしており、各人が持ちやすいカップや湯呑みを使用している。また、水分の取りにくい人には主治医と相談しながら、食事形態の工夫、トロミ剤、栄養補助飲料の使用や高カロリーゼリー、OS-1の提供も行っている。夜間に水分を飲用したいという要望などにも積極的に取り組み、一度に必要な量の摂取が難しい方には数回に分けて夜間でも摂取できるよう対応させていただいている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ひとり一人の能力に応じた方法で、食後の歯磨き、義歯の洗浄、またマウスウォッシュを購入し、うがいの支援にも力を入れている。うがいが難しく飲み込んでしまう方には飲料水でうがいして頂いたり、うがいの必要がない歯磨き粉等を使用している。また、それぞれが使いやすい好みの形のカップを使用して頂き、一日の中で口腔内や義歯が清潔で心地よく過ごして頂ける様努めている。食事の際にも気持ちよく食事して頂けるよう支援し、夜間も義歯を使用されている方は義歯洗浄剤を用意し使用するなど、昼夜を通して清潔を保持できる様努めている。また歯科医院とも連携しているため、希望があった際には往診に来ていただいている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の都度、状態や形状等を記録し、その記録を活用して排泄リズムを把握し、極力失禁が減るように配慮しながらトイレへの言葉かけを行っている。また職員間でも情報を共有しながら、個々の能力に応じて排泄の方法を考え、その日の状態に応じて言葉かけのタイミングに配慮している。排泄中は席を外しご本人が気持ちよく用を足せるよう配慮し、自尊心が損なわれないよう努めている。 | 一人ひとりに日々の詳細な記録をつけており、その把握から、その人に合った排せつ方法を検討している。 また、出来るだけトイレ誘導等を行い、排泄の自立支援に努めており、安易なオムツ利用とならない工夫が見られる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりの排泄パターンを記録し職員全体で把握している。一日の水分量や入居者ひとり1人の嗜好に配慮しながら食事内容にも工夫している。またテレビのラジオ体操や腹部マッサージ等を行うことによって便秘の原因解消に努めている。主治医と相談を行いながら、その指導の下、内服薬を細かく調整している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 毎日入浴の出来る環境作り、その準備を整えている。一人ひとりのその日の体調や希望に沿って入浴支援を行っている。入浴が困難な場合には足浴、清拭、個々の思いの衣服への更衣など行っている。日によって入浴剤や足マットを変える等、ささやかですが入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。入浴後には医師の指示の下、処方された保湿剤やご家族様がお持ちくださった保湿剤を使用し、乾燥予防ケアに取り組んでいる。入浴後には好みの飲み物を飲んでいただき、入浴後もほっとできるような支援に努めている。 | 入浴補助用具の導入等により、入居者が安心、安全に入浴ができるように、様々な工夫をしている。 また、入浴を清潔と言う観点だけにとらわれることなく、清潔を保つ、気持ち良くなる、といった心の落ち着きが得られるような支援を進めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 全室個室となっているため、いつでも自由に休息して頂けるようになっている。家具や寝具についてもご本人のなじみのあるものを持っていただき、くつろげるよう配慮している。また、洗面やトイレ、エアコンも各居室に完備しているため、落ち着いて過ごせるようになっている。コロナ感染者が発生した場合においても居室にいつもの空間で過ごして頂ける造りとなっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者ひとり一人の薬については薬品名、容量、効能等いつでも確認できるように資料を作成しており、職員は常に閲覧し入居者ひとり一人の処方されている薬を把握できる環境を整えており、ご家族の情報等も一枚にまとめ、避難時にも持ち出せるよう工夫している。職員一人ひとりが各入居者の薬の種類や数、効能を知る事で、誤薬を防ぐようにしている。また、服薬の際には、きちんと薬が飲みこまれたか確認し、服薬管理簿に記録する事でミスのない服薬に努めている。また、処方薬は服薬時間ごとに分けており、何度も確認するようにし、誤薬を防ぐよう徹底している。訪問看護師や主治医、薬剤師に相談しながら服薬についての理解に取り組んでいる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご本人やご家族様にお聞きして、今までの生活歴や得意なことを把握することで、その人らしい暮らしが継続できるように支援している。ご本人が家事参加などの役割を持って日々の暮らしに張り合いを持ち、様々なレクリエーションなどの参加を通して楽しみある毎日を過ごしていただけるように取り組んでいる。天気の良い日には、ふるさとの畑に行ったり周辺を散策することで、季節を肌で感じていただき、気分転換ができるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気分転換ができるようにご本人の体調を見ながら外気に触れられる機会を作れるように努めている。ホームの敷地内には、梅や桜、季節の野菜が植えられており、室内や庭から花見や野菜の成長が楽しめる環境を作っている。敷地内をアスファルトに整備したことで、車いすの方でも無理なく安全に移動していただけている。現在はコロナ感染拡大防止の観点より、人の多い場所への外出は避け、近所のお花やホームの敷地内での散歩等の支援を行っている。 | コロナ禍において、外出制限があるため、散歩に付加価値をつける(散歩の際、自販機で好みの飲み物を買う等)等して、短時間でも楽しみが倍増するような工夫をしている。敷地内にある畑や花壇等に自由に行けるような取り組みをしており、事業所内であっても外出気分が味わえるようなものとしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者個々の状態に合わせて、ご家族と相談の上、管理が可能な方は自己管理していただいている。現在はコロナ禍のため外出の機会は少ないが、外出時にはご自身でお買い物できるよう支援しており、ご家族にご報告させていただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 固定電話や携帯電話を含めて、特に規制はなく、ご本人の要望に合わせて、その都度電話の使用を支援している。手紙を使用される方には、切手やはがきの購入、投函などを職員が代行して行っており、ご家族や大切な人との関わりを大切にいただけるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間には季節の観葉植物や生花、小物や壁画を飾って四季を感じれるようにしている。畑だけでなく、室内でも野菜栽培をして利用者様と一緒に水やりをしてお世話をすることで、日に日に育つ野菜やお花の成長、収穫できることを楽しみにいただいている。壁画は入居者個々にできることが違うためにそれぞれで行っていただくことで達成感を味わっていただき、季節を感じていただいている。 | 玄関には、季節の植物や野菜を植えている。掲示板には、手作り作品等を飾り、四季を感じられるような工夫もしている。その作品について、職員と入居者が語らう様子も見られ、工夫しながら進めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有スペースでは趣味を楽しまれたり、思い思いにお過ごしいただけるように工夫している。ゆっくりとくつろげるようにソファとテレビを設置したり、日当たりの良い場所にベンチやイスを設置している。必要に応じて、家具の配置を変更して、自由に過ごしていただけるように配慮している。またホールはどこにいても目が届きやすいような設計となっており、安全面に配慮している。 | | |